

桜 島

○火山活動度レベル

期間中の火山活動度レベルは 2（比較的静穏な噴火活動）でした。

概 況

桜島南岳の噴火活動は、15 日から 24 日にかけてやや活発化し、月噴火回数は 10 回でした。また爆発的噴火（以下、爆発と略す）は 5 回でした。

噴火活動の状況

噴火活動は 15 日から 24 日にかけてやや活発化し、21 日には噴火が 3 回発生しました。5 月の噴火回数は 10 回（4 月：3 回）、そのうち爆発は 5 回（4 月：なし）でした（表 1）。

1 日の爆発では、爆発音の強度は中で体感空振はなく、少量の噴石が 6 合目まで飛散しました。また、15 日の爆発では、爆発音、体感空振とも強度は大で、少量の噴石が 8 合目まで飛散しました。爆発音の強度で大を観測したのは 2000 年 3 月 20 日以来、また体感空振で大を観測したのは 2002 年 10 月 20 日以来です。噴石の飛散を確認したのは 1 月 12 日の爆発（少量の噴石が 8 合目まで飛散）以来です。

表 1 5 月の日別噴火・爆発回数

日	1	15	17	19	20	21	23	24	合計
噴火回数	1	1	1	1	1	3	1	1	10
爆発回数	1	1	0	1	1	0	0	1	5

爆発は「爆発的噴火」の略称で噴火の一形態であり、噴火回数にも含まれます。

表 2 爆発音・体感空振の強度

強度	小	中	大
爆発音	注意深くしていると聞こえる程度	誰にでも聞こえる程度	非常に大きく聞こえる程度
体感空振	注意深くしていると感じる程度	誰にでも感じる程度	窓ガラスなどが激しく振動し、時には破損することもある程度

鹿児島市東郡元町での観測結果です。

噴煙活動の状況

噴煙を確認できた噴火は 7 回で、噴煙量はすべて中量でした。噴煙高度の最高は、24 日 19 時 03 分の噴火により灰白色の噴煙が火口縁上 1,300m まで上がりました。

地震・微動活動の状況

震動観測点 B 点（南岳火口の北西約 2.3km）での火山性地震の月回数は、216 回（4 月：

306 回) でした。このうち A 型地震 15 回 (4 月 : 21 回) B 型地震 196 回 (4 月 : 285 回) で、共に先月よりもやや少なくなりました。震源が求まった A 型地震は 4 個で、南岳火口周辺に分布しました。B 型地震の日回数は、17 日に 27 回発生しましたが、それ以外では 20 回を超える日はありませんでした (図 1)。

火山性微動は 18 日に 4 回発生したのをはじめ、月合計で 10 回 (4 月 : 1 回) 発生しました。微動出現時間の合計は 0.5 時間でした (図 1)。

降灰の状況

鹿児島地方気象台 (南岳の西南西約 11km) の観測では、5 月の降灰量は 1 g/m^2 (4 月降灰なし) 降灰は 23 日のみでした (図 2)。鹿児島地方気象台で降灰を観測したのは、昨年 11 月 19 日以来です。

地殻変動活動の状況

GPS による地殻変動観測では、黒神 - 野尻、黒神 - 藤野、藤野 - 野尻の各観測点間の基線長に火山活動に起因する変化は見られませんでした (図 4)。

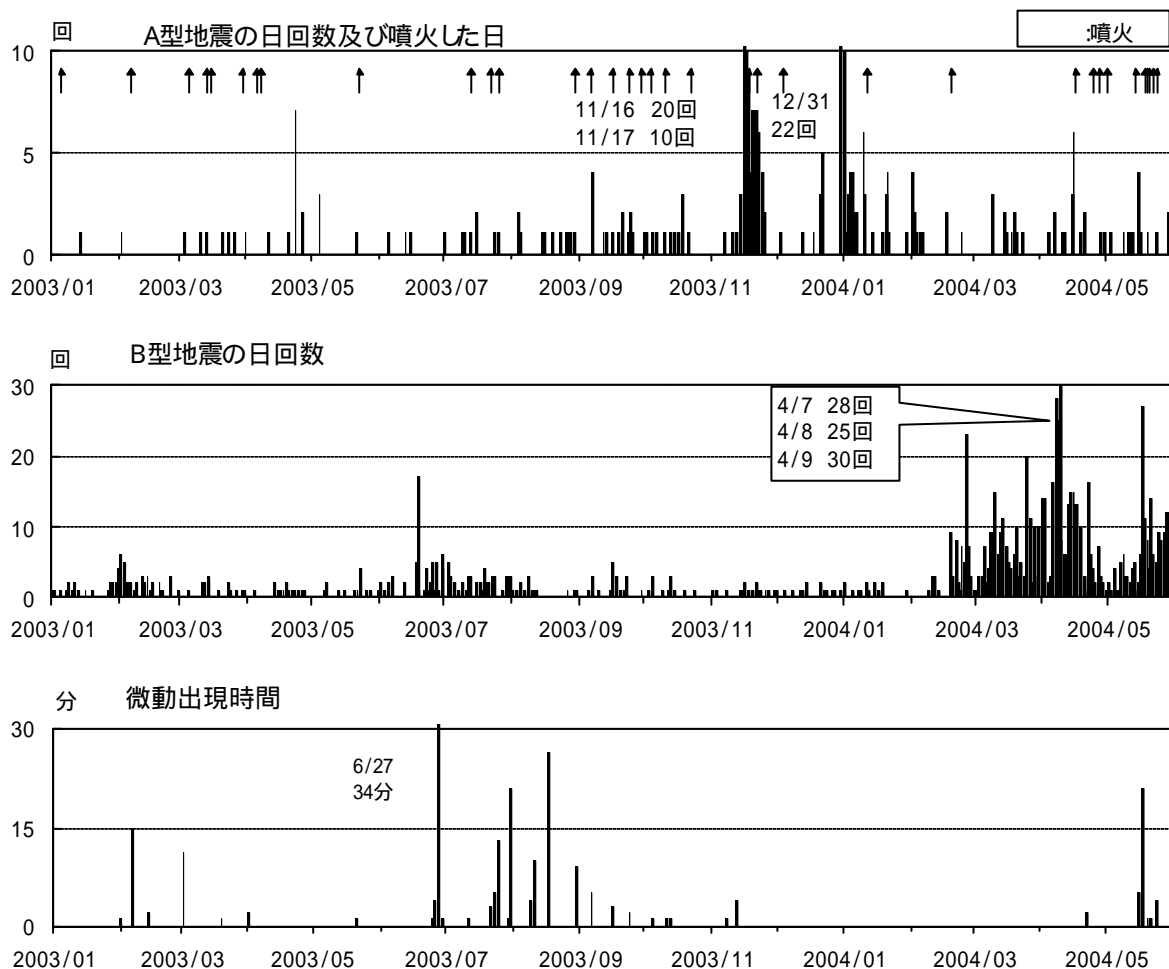


図 1 火山活動経過図 (2003 年 1 月 ~ 2004 年 5 月)

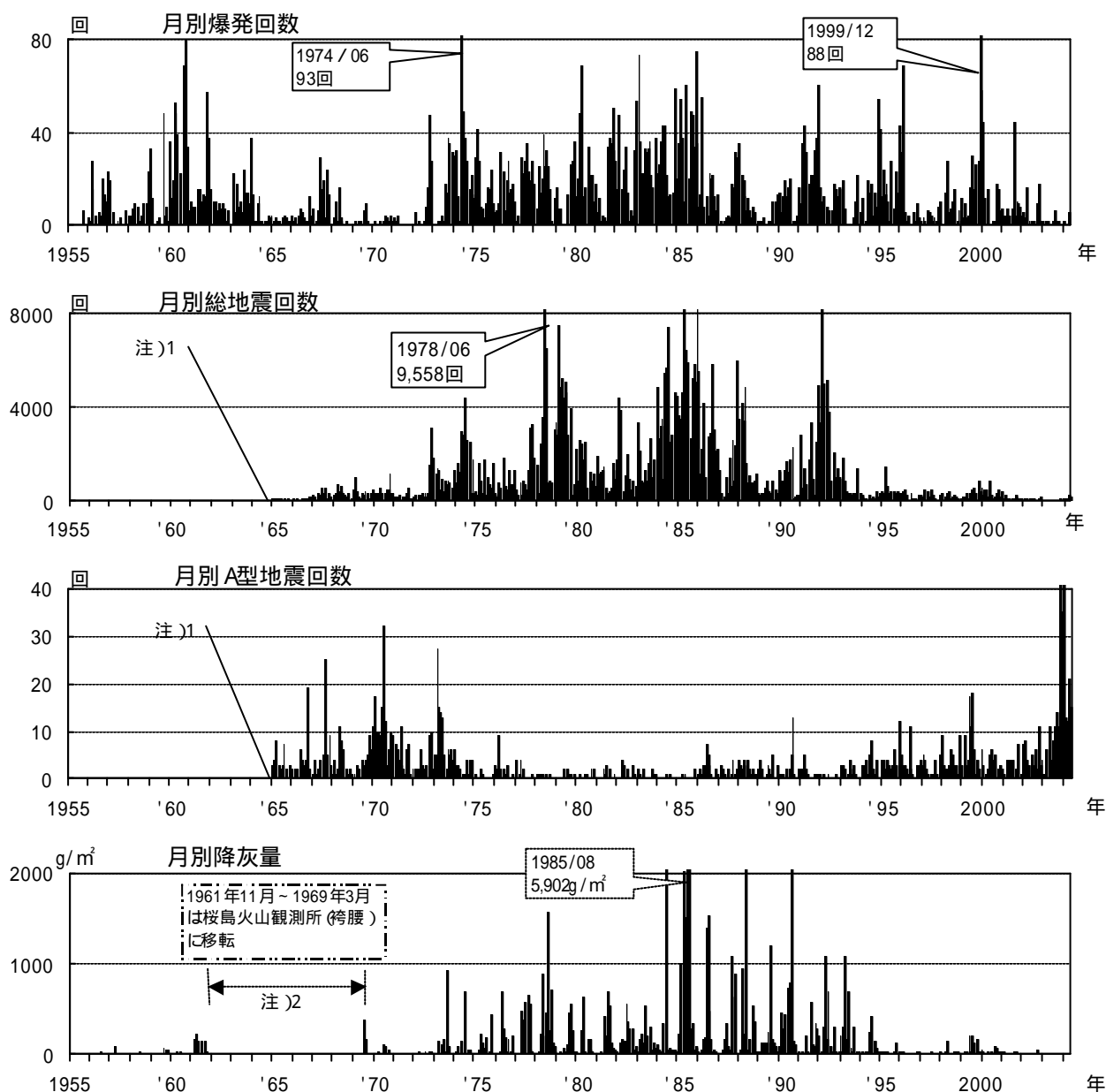


図2 火山活動経過図（1955年1月～2004年5月）

注)1：震動観測点A点における総地震回数およびA型地震回数は、1965年からのデータをグラフに示した。

注)2：気象台での降灰量の観測は1994年2月24日までは鹿児島市荒田1丁目、同年2月25日以降は同市東郡元町において行なわれた。なお、1961年11月から1969年3月までは桜島に観測所を移転したため降灰量の統計は中断した。

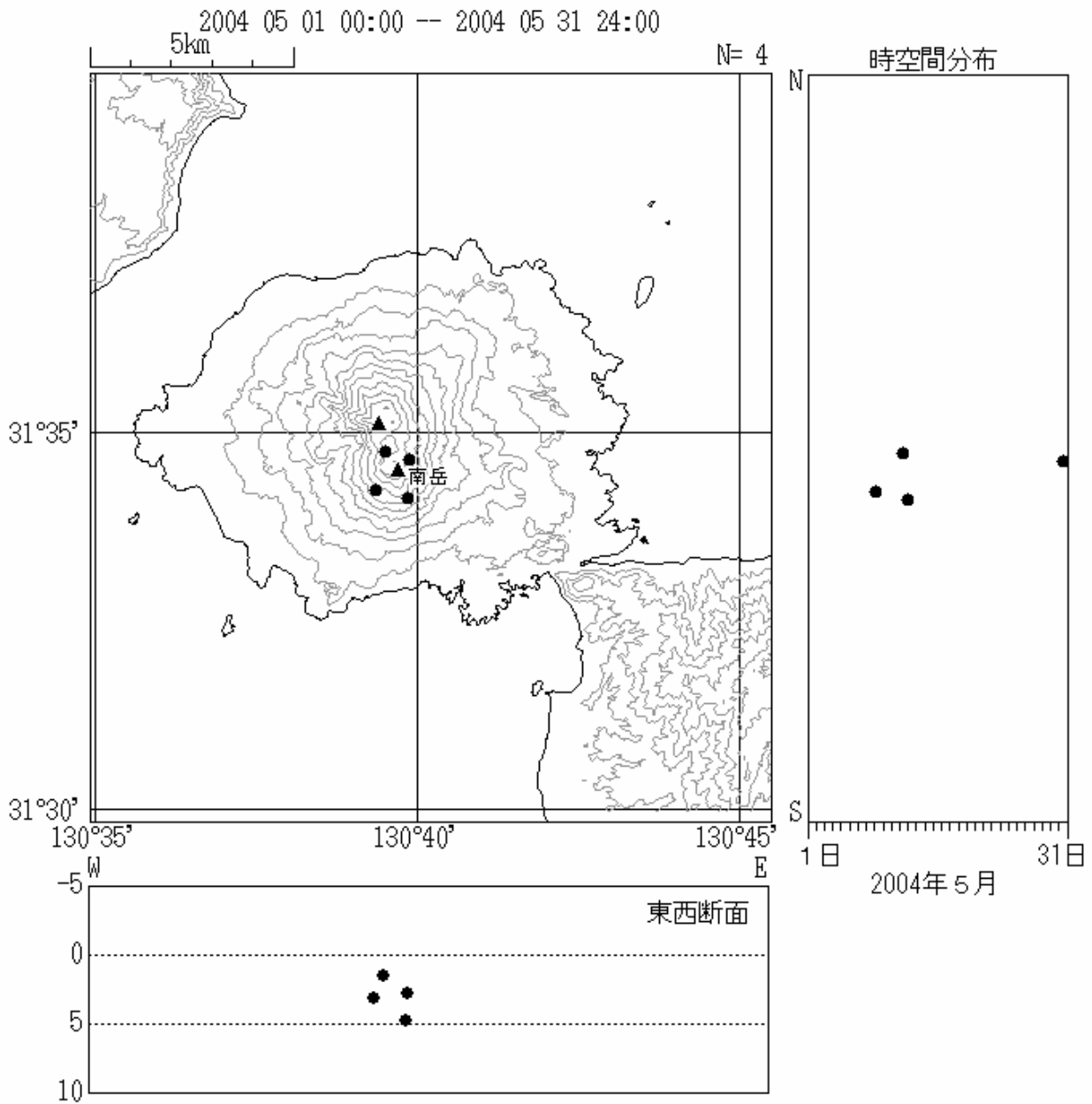


図3 震央分布図（上）と断面図（下）、時空間分布図（右）
（2004年5月1日～5月31日）

本資料は、鹿児島大学、気象庁のデータを用いて作成している。

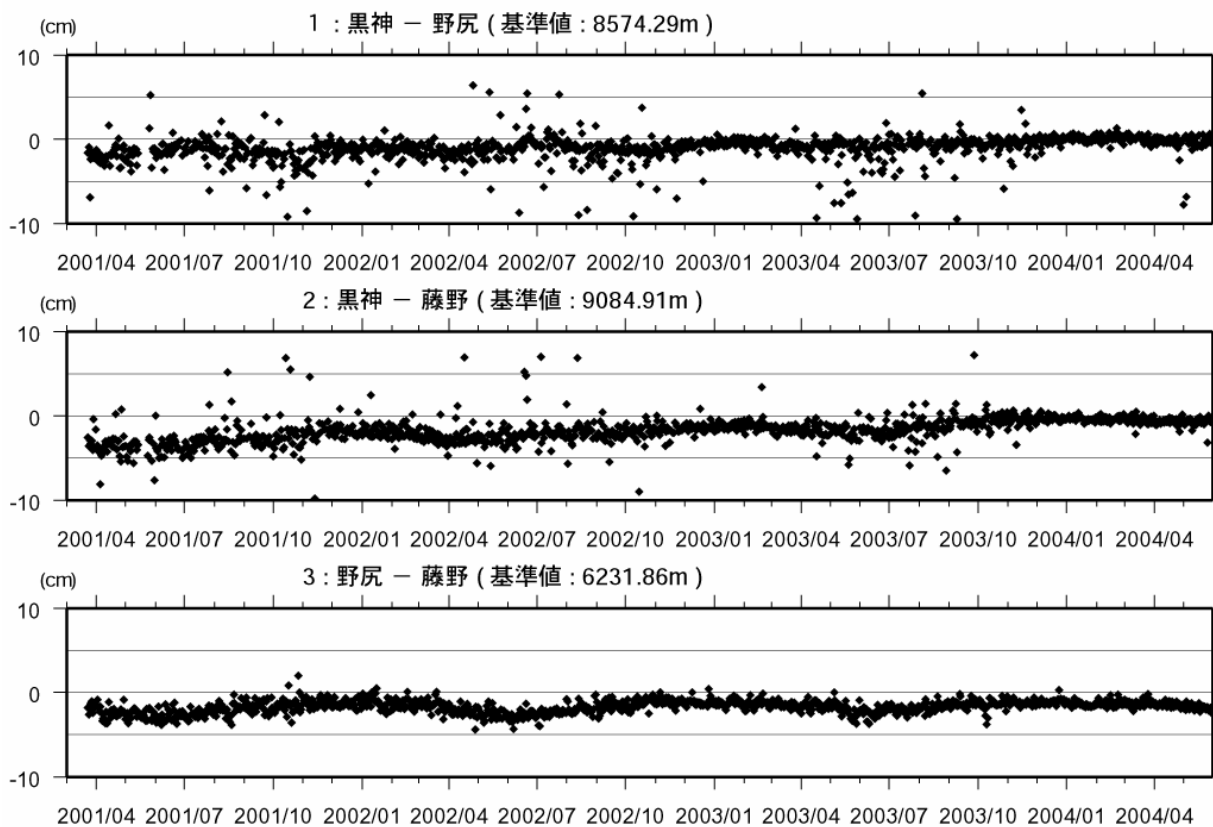


図4 GPSによる基線長変化(2001年3月22日~2004年5月31日)

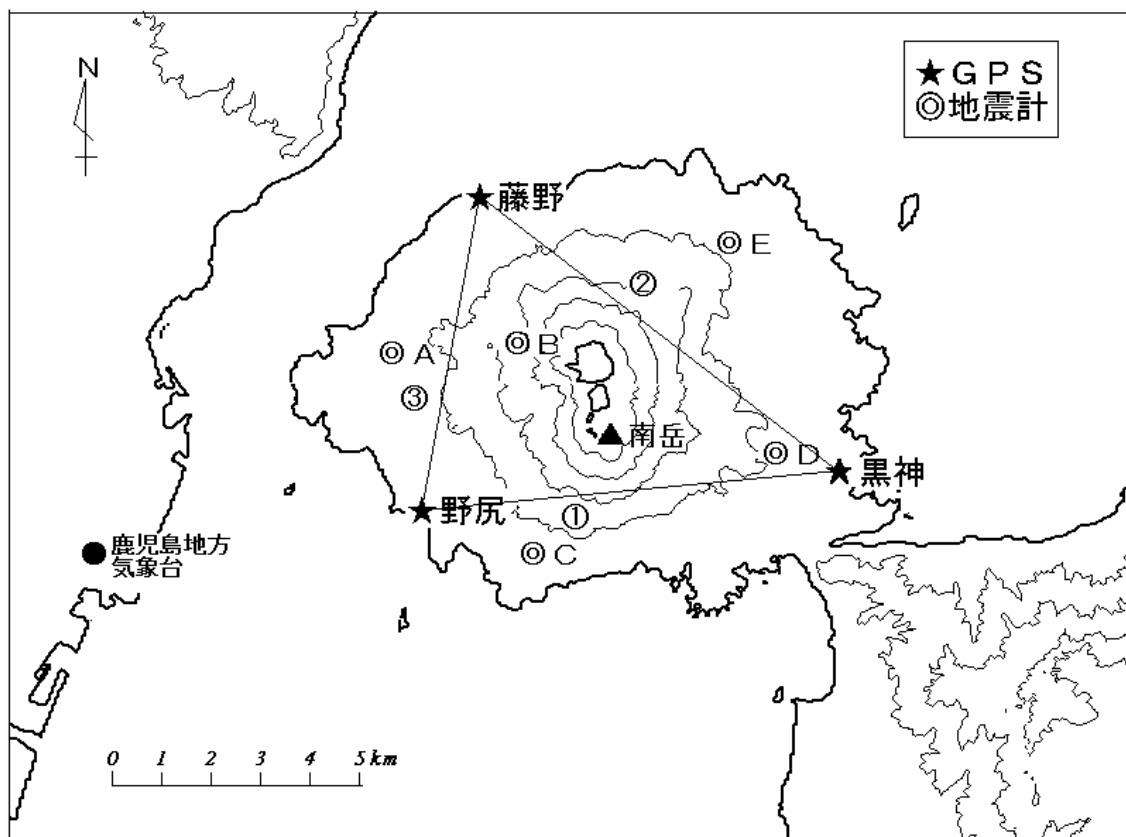


図5 観測点位置図